



電話の更新

この章では、[電話の更新 (Update Phones)] オプションを使用して、類似した電話のグループのデバイスプールまたはコーリングサーチスペースの変更や追加など、電話の設定を更新する方法について説明します。クエリまたはカスタムファイルのいずれかを使用して、更新する既存の電話機レコードを検索できます。電話機レコードを見つけたら、更新パラメータの定義に進むことができます。

- [クエリを使用した電話機の更新, 1 ページ](#)
- [カスタムファイルを使用した電話機の更新, 3 ページ](#)
- [更新パラメータの選択, 4 ページ](#)
- [電話の更新フィールドの説明, 5 ページ](#)

クエリを使用した電話機の更新

更新する電話機を特定するためのクエリを作成します。次の手順に従って電話機を特定した後、更新パラメータを選択する必要があります。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の更新 (Update Phones)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。
[電話機更新クエリ (Update Phones Query)] ウィンドウが表示されます。
- (注) すべての電話を更新するには、クエリを指定せずに、[検索 (Find)] をクリックします。この手順の残りをスキップして、電話機の更新パラメータの選択手順に進みます。
- ステップ 2** [電話の検索 (Find Phone where)] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。
- デバイス名 (Device Name)
 - 説明

- [電話番号 (Directory Number)]
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- デバイスタイプ (Device Type)
- コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)
- LSC ステータス (LSC Status)
- LSC 有効期日 (LSC Expires)
- LSC 発行者
- LSC 発行者有効期限
- 認証文字列 (Authentication String)
- 参照先
- 電話ロード名 (Phone Load Name)
- デバイス プロトコル (Device Protocol)
- セキュリティ プロファイル (Security Profile)
- 最後のアクティブ (Last Active)
- 最終登録

(注) 新しいデバイスに LSC が発行されていない場合、[LSC 有効期日 (LSC Expires)] および [LSC 発行元の有効期日 (LSC Issuer Expires by)] フィールドのステータスは [該当なし (NA)] “ ” に設定されます。

[LSC有効期限 (LSC Expires)] フィールドと [LSC発行者有効期限 (LSC Issuer Expires by)] フィールドのステータスは、Cisco Unified Communications Manager 11.5(1) へのアップグレード前に LSC がデバイスに発行された場合に [不明 (Unknown)] “ ” に設定されます。

2 番目の [電話の検索 (Find Phone where)] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- が次の日付より前 (is before)
- が次の文字列と等しい (is exactly)
- が次の日付より後 (is after)
- が次の文字列で始まる (begins with)
- が次の文字列を含む (contains)
- が次の文字列で終わる (ends with)
- が次の文字列と等しい (is exactly)

- が空である (is empty)
- が空ではない (is not empty)

- ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。
ヒント データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 4** さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2, \(1 ページ\)](#) と [ステップ 3, \(3 ページ\)](#) を繰り返します。
- ステップ 5** [検索 (Find)] をクリックします。
検出された電話の一覧が表示されます。[電話の更新 (Update Phones)] ウィンドウに、選択した電話機の詳細が表示されます。

次の作業

電話機の更新手順を完了するには、[更新パラメータの選択, \(4 ページ\)](#) に進みます。

カスタム ファイルを使用した電話機の更新

更新する電話機を特定するためのカスタム ファイルを作成します。次の手順に従って電話機を特定した後、更新パラメータを選択する必要があります。



- (注) bat.xlt を使って作成した挿入トランザクション ファイルまたはエクスポート トランザクション ファイルを、更新トランザクションに使用しないでください。代わりに、更新する必要がある電話機レコードの詳細を含むカスタム ファイルを作成する必要があります。更新トランザクションには、このファイルだけを使用してください。

はじめる前に

- 1 更新する必要があるデバイスを特定します。
- 2 以下の各オプションがそれぞれ別の行に配置されたテキスト ファイルを作成します。
 - デバイス名
 - 電話番号
 - 説明



- (注) カスタム更新ファイルにデバイス名、説明、または電話番号の値を入力します。カスタム更新ファイルに見出しを含める必要はありません。

- 3 テキストファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。 [サーバへのファイルのアップロード](#)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の更新 (Update Phones)] > [カスタムファイルの使用 (Use Custom File)] の順に選択します。
[電話の更新 (カスタム) (Update Phones Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [電話の更新 (Update Phones where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次の条件から作成したカスタムファイルのタイプを選択します。
- デバイス名 (Device Name)
 - [電話番号 (Directory Number)]
 - 説明
- ステップ 3** カスタムファイルのリストで、この更新操作用のカスタムファイルのファイル名を選択します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
適切なクエリ結果が表示されない場合は、カスタムファイルの選択を変更できます。
-

次の作業

電話機の更新手順を完了するには、[更新パラメータの選択](#)、(4 ページ) に進みます。

更新パラメータの選択

更新する電話を特定したら、パラメータを選択し、それらの電話を更新するための値を定義できます。

手順

-
- ステップ 1** [電話の更新クエリ (Update Phones Query)] ウィンドウで、[次へ (Next)] を選択します。
[電話の更新 (Update Phones)] に、選択しているクエリのタイプが表示されます。クエリのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。
- ステップ 2** 更新する前にユーザをログアウトするには、[更新する前にユーザをログアウトする (Logout Users before Update)] チェックボックスをオンにします。

フィールドが選択されていない場合、ユーザを一括してログアウトするために、このオプションを使用できます。

- ステップ 3** クエリまたはカスタム ファイルで定義したすべてのレコードで更新する設定を指定します。更新する複数のパラメータを選択できます。パラメータの説明については、[表 1：電話を更新する際のフィールドの説明](#)、(6 ページ) を参照してください。
- ステップ 4** 更新するフィールドの左側にあるチェックボックスをオンにします。この操作によって、フィールドの既存の値を上書きするよう BAT に指令が出されます。
- (注) 更新チェックボックスをオンにしたフィールドのみが BAT によって更新されることに注意してください。
- ステップ 5** オンにしたパラメータの [値 (Value)] フィールドに、新しい値を入力するか、リスト ボックスから値を選択します。
- ステップ 6** [電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones)] 領域で、次のいずれかをオンにします。
- [電話のリセット/電話のリスタート/設定の適用を実行しない (Don't Reset/Restart phones/Apply Config)] : 後でデバイスのリセット/リスタートを実行します。
 - [電話のリセット (Reset phones)] : 電話機をリセット (電源の入れ直し) します。
 - [電話のリスタート (Restart phones)] : 電源を入れ直さずに電話機をリセットします。
 - [設定の適用 (Apply Config)] : 最後のリセット以降に変更された設定のみをリセットします。
- ステップ 7** 必要な電話パラメータを更新します。フィールドの説明については、[表 1：電話を更新する際のフィールドの説明](#)、(6 ページ) を参照してください。
- ステップ 8** レコードを更新するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブにします。

関連トピック

[BAT ログ ファイル](#)

[ジョブのスケジュール設定の管理](#)

電話の更新フィールドの説明

次の表で、電話を更新する際に表示される可能性のあるすべてのフィールドの説明を記載します。デバイス タイプによっては、電話の設定項目の一部は必要ありません。

一部のフィールドには、Cisco Unified Communications Manager からの値が表示されます。それらの値は、Cisco Unified Communications Manager Administration で設定する必要があります。



(注) 一部のフィールドには2つのチェックボックスがあることに注意してください。最初のチェックボックスは、そのフィールドを更新する必要があるかどうかを決定し、2番目のチェックボックスはそのフィールドに使用する値を決定（オン/オフ）します。



ヒント フィールドを更新する必要がある場合は、最初のチェックボックスをオンにした上で、2番目のフィールドをオンにして、オンになっている値を選択した電話に適用します。たとえば、[応答不可 (Do Not Disturb)] フィールドの最初のチェックボックスをオンにして、2番目のチェックボックスをオフのままにすると、[応答不可 (Do Not Disturb)] フィールドのオフにされている値で電話が更新されます。

表 1: 電話を更新する際のフィールドの説明

フィールド	説明
説明	デバイスを認識するのに役立つ説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	この電話機/ポートのグループを割り当てるデバイスプールを選択します。 デバイス プールは、リージョン、日時グループ、Cisco Unified Communications Manager グループ、自動登録用コーリング サーチスペースなど、デバイスに共通の一連の特性を定義します。
共通デバイス設定 (Common Device Configuration)	この電話機を割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。 共通デバイス設定の詳細を表示するには、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	適切な電話ボタンテンプレートを選択します。電話ボタンテンプレートでは、電話機上のボタンを設定し、各ボタンにどの機能 (回線、スピードダイヤルなど) を使用するかを特定します。 Cisco Unified Communications Manager は、H.323 クライアントまたは CTI ポートに対してはこのフィールドを無効にします。
ソフトキー テンプレート (Softkey Template)	このグループのすべての電話機に使用するソフトキー テンプレートを選択します。

フィールド	説明
共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)	ドロップダウンリストボックスで、使用可能な共通の電話プロファイルのリストから共通の電話プロファイルを選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	この電話機/ポートのグループを割り当てるコーリングサーチスペースを選択します。 コーリングサーチスペースは、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。
[AARコーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされた場合に、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	この電話機/ポートのグループを割り当てるメディアリソースグループリスト (MRGL) を入力します。 MRGL は、メディアリソースグループの優先順位付けされたリストを指定します。アプリケーションは使用可能なメディアリソースの中から MRGL で定義されている優先順位の順に、必要なメディアリソースを選択できます。
ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)	この電話機またはポートのユーザ保留音源を選択します。 ユーザ保留音源は、ユーザがコールを保留にすると保留音を再生します。
ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)	IP フォンまたは CTI ポートのグループで使用するネットワーク保留音源を入力します。 ネットワーク保留音源は、システムがコールを保留にする際 (ユーザがコールを転送またはパーク保留にした場合など) に、保留音を再生します。
参照先	この電話機/ポートのグループを割り当てるロケーションを選択します。 ロケーションは、制限された帯域幅接続を使用してアクセスするリモートロケーションを意味します。

フィールド	説明
[AARグループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングするために使用するプレフィックス番号を提供します。AAR グループが指定されていない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイス プールまたは回線に関連付けられている AAA グループを使用します。
ユーザ ロケール (User Locale)	このユーザに関連付ける国と言語のセットを選択します。 この選択項目によって、このユーザの文化に依存した属性と、Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウおよび電話機でユーザに表示される言語が決定されます。
ネットワーク ロケール (Network Locale)	このユーザに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。 ネットワーク ロケールは、Cisco ゲートウェイおよび電話機が特定の地理的地域で PSTN およびその他のネットワークと通信する際に使用する一連のトーンとリズムで構成されます。
[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)]	[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウンリストボックスを使用して ([On (オン)]、[Off (オフ)]、または[デフォルト (Default)]を選択)、割り込み機能用のビルトイン会議ブリッジを有効または無効にします。
プライバシー (Privacy)	プライバシーが必要な電話機のそれぞれに対して、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウンリストボックスから [オン (On)] を選択します。 設定の詳細については、『 <i>Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager</i> 』の「Barge and Privacy Features」を参照してください。

フィールド	説明
[デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)]	<p>このデバイスに対して、ドロップダウン リスト ボックス から [オン (On)] または [オフ (Off)] を選択してデバイス モビリティ機能を有効または無効にするか、あるいは [デフォルト (Default)] を選択してデフォルトのデバイス モビリティ モードを使用します。</p> <p>[現在のデバイスモビリティ設定の表示 (View Current Device Mobility Settings)] をクリックすると、以下のデバイス モビリティ パラメータの現在の値が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CMグループ (Cisco Unified Communications Manager Group)] • [デバイス プールのローミング (Roaming Device Pool)] • 参照先 • 地域 • ネットワーク ロケール (Network Locale) • [AARグループ (AAR Group)] • [AARコーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)] • Device Calling Search Space (デバイス コーリング サーチ スペース) • [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] • SRST
モビリティ ユーザ ID (Mobility User ID)	<p>ドロップダウンリストボックスから、このデュアルモード電話を割り当てるユーザのユーザ ID を選択します。</p> <p>(注) [モビリティ ユーザ ID (Mobility User ID)] 設定は、デュアルモード フォンのモバイル コネクトおよびモバイル ボイス アクセスに使用されます。</p> <p>(注) オーナー ユーザ ID とモビリティ ユーザ ID は異なっていても構いません。</p>
[オーナーのユーザID (Owner User ID)]	プライマリ電話ユーザのユーザ ID を入力します。

フィールド	説明
Phone Personalization	<p>ドロップダウンリストボックスを使用して、このデバイスに対して Cisco Unified Phone Designer 機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択して共通の電話プロファイルに設定されている電話機のパーソナライゼーションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Disabled)] : Cisco Unified Phone Application Suite 機能はいずれもアクティブにされません。 • [有効 (Enabled)] : この設定では、パーソナライズされた背景画像ファイルを電話機の画面に使用したり、プレビュー画像ファイルを一時的に表示したり、パーソナライズされたトーンファイルでデフォルトの呼出音をカスタマイズしたりできます。 • [デフォルト (Default)] : 共通の電話プロファイルの電話機のパーソナライゼーション設定を使用します。
Services Provisioning	<p>ドロップダウンリストボックスの次の値から、使用するサービスプロビジョニング設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内線 • [外部 URL (External URLs)] • 両方 • デフォルト : [内部 (Internal)] <p>このパラメータは、設定ファイル (内部)、サービス URL から受信するサービス (外部 URL)、またはその両方にプロビジョニングされているサービスを電話機で使用するかを制御します。[外部 URL (External URLs)] オプションは、サードパーティ製プロビジョニングサーバとの後方互換性を提供します。[両方 (Both)] オプションを選択すると、ユーザは設定ファイルに指定されているサービスにサブスクライブできるだけでなく、外部プロビジョニングサーバのサービスも追加することができます。</p> <p>必須フィールドです。</p>
電話ロード名 (Phone Load Name)	<p>必要に応じて、カスタム電話ロードを入力します。</p> <p>(注) このフィールドに入力する値によって、選択したモデルのデフォルト値がオーバーライドされ、Cisco Unified IP Phone のカスタムソフトウェアが指定されます。</p>

フィールド	説明
ワンボタン割り込み (Single Button Barge)	<p>ドロップダウンリストボックスから、ワンボタン割り込み/C割り込み機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択してサービスパラメータの設定を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : この設定は、ワンボタン割り込み/C割り込み機能を無効にします。ただし、通常の割り込みまたはC割り込み機能は引き続き動作します。 • [割込 (Barge)] : この設定は、ワンボタン割り込み機能を有効にします。 • [C割込 (cBarge)] : この設定は、ワンボタンC割り込み機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : この設定は、サービスパラメータの Single Button Barge/cBarge の設定を使用します。
回線をまたいで参加	<p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスの「複数ライン同時通話」機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択してサービスパラメータの設定を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 複数ライン同時通話を無効にします。 • [オン (On)] : この設定は[複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] 機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : サービスパラメータの [複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] 機能の設定を使用します。

フィールド	説明
[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントで信頼されたリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次の値のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : この値を選択した場合、デバイスはこのデバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定を使用します。 • オフ (Off) : このデバイスで TRP の使用を無効にするには、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 • On : このデバイスで、TRP の使用をイネーブルにする場合にこの値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 <p>トラステッドリレーポイント (TRP) デバイスはトラステッドリレーポイントとしてラベル付けされている MTP またはトランスコーダ デバイスを指定します。</p> <p>複数のリソースがエンドポイントに必要な場合 (たとえばトランスコーダや RSVP Agent) 、Cisco Unified Communications Manager は関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を選択します。</p> <p>TRP と MTP の両方がエンドポイントに必要な場合は、TRP が必須の MTP として使用されます。</p>
[発呼側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定により、デバイスの発信者番号をローカライズできません。選択した発呼側トランスフォーメーションCSSに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>発呼側トランスフォーメーションCSSが存在するパーティションにパターンを割り当てると、デバイスは発呼側トランスフォーメーションパターンの属性を取得します。</p>

フィールド	説明
位置情報 (GeoLocation)	<p>ドロップダウンリストボックスから、地理位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスを地理位置情報に関連付けないことを指定する未指定の地理位置情報を選択できます。</p> <p>さらに、[システム (System)] > [地理位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニューオプションで設定した地理位置情報も選択できます。</p>
緊急ロケーション (ELIN) グループ	<p>この電話機のグループを割り当てる緊急ロケーション (ELIN) グループを選択します。ELINグループは、ALIデータベース内でこのELINグループのELINをマップするロケーションを識別します。</p>
機能管理ポリシー (Feature Control Policy)	<p>この電話機グループの機能管理ポリシーを選択します。</p> <p>機能管理ポリシーは、電話機に表示される機能とそれぞれの機能に関連付けられるソフトキーの外観を指定します。</p>
BLF オーディオアラート設定 (電話がアイドルのとき) (BLF Audible Alert Setting (Phone Idle))	<p>この必須フィールドには、ドロップダウンリストボックスの次の値から、使用する BLF 警告音設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オン • オフ (Off) • デフォルト <p>このパラメータは、話中ランプフィールド (BLF) ボタンを使用してモニタされる回線のいずれかにコールが入ってきたときに現在使用されていない電話機に表示されるビジュアルアラートに加え、警告音も指定します。</p>
BLF オーディオアラート設定 (電話がビジーのとき) (BLF Audible Alert Setting (Phone Busy))	<p>この必須フィールドのパラメータは、話中ランプフィールド (BLF) ボタンを使用してモニタされる回線のいずれかにコールが入ってきたときに現在使用されている電話機に表示されるビジュアルアラートに加え、警告音も指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスの次の値から、使用する BLF 警告音設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オン • オフ (Off) • デフォルト

フィールド	説明
[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]	ドロップダウン リスト ボックスから、[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] の設定として次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン • オフ (Off) • デフォルト
[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)]	ドロップダウン リスト ボックスから、[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] の設定として次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン • オフ (Off) • デフォルト
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	このデバイスに割り当てられているデバイスプールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合、デバイスはデバイス設定ウィンドウで設定した発信側トランスフォーメーション CSS を使用します。
プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators)	システムで表示インジケータを無視する必要がある場合は、このチェックボックスをオンにします。
ビデオ コールをオーディオとして再試行 (Retry Video Call as Audio)	ビデオコールをオーディオコールとして再試行するには、このチェックボックスをオンにします。
[CTIからのデバイスの制御を許可 (Allow Control of Device from CTI)]	CTI に対してこのデバイスの制御と監視を許可する場合は、このチェックボックスをオンにします。 関連付けられている電話番号が共有回線を指定している場合、少なくとも 1 つの関連付けられているデバイスが CTI でサポートするデバイス タイプとプロトコルの組み合わせをサポートしている限り、このチェックボックスをオンのままにする必要があります。

フィールド	説明
ハントグループにログイン (Logged into Hunt Group)	<p>このチェックボックスは、すべての電話機に対してデフォルトでオンにされていて、電話機が現在ハントリスト（グループ）にログインしていることを示します。電話機をハントリストに追加したら、管理者はこのチェックボックスをオン（またはオフ）にすることによって、ユーザをログインまたはログアウトさせることができます。</p> <p>ユーザは電話機のソフトキーを使用して、電話機をハントリストにログインまたはログアウトします。</p>
リモートデバイス (Remote Device)	<p>SCCP でリモートサイトへの接続時間の遅延が発生している場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [リモートデバイス (Remote Device)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は電話デバイスの登録時にバッファを割り当て、SCCP メッセージを電話機にバンドルします。</p> <p>(注) この機能はリソースを消費するため、SCCP を実行している電話機で、シグナリングの遅延が発生している場合のみ、このチェックボックスをオンにしてください。ほとんどのユーザでは、このオプションは必要ありません。</p>
保護されたデバイス (Protected Device)	<p>電話機を保護されたデバイスとして指定するには、このチェックボックスをオンにします。この場合、電話機が 2 秒間トーンを再生してユーザにコールが暗号化されていることを通知します。また、発信側と着信側の両方の電話機が保護されたデバイスとして設定されます。このトーンは、コールが応答されたとき、発側と着側の両者に対して再生されます。このトーンは、発側と着側の両方の電話が“保護され”ていて、なおかつ暗号化メディア上でコールが行われたときでなければ再生されません。</p>
[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]	
パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)	<p>ドロップダウンリストボックスから、シグナルパケットキャプチャに設定するモードを選択します。</p> <p>[なし (None)] : モードを指定しない場合は、[なし (None)] を選択します。</p> <p>[リアルタイムモード (Real-Time Mode)] : リアルタイムシグナルパケットキャプチャには、このモードを使用します。</p> <p>[バッチ処理モード (Batch Processing Mode)] : バッチ処理シグナルパケットキャプチャモードには、このモードを使用します。</p>

フィールド	説明
パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)	パケットキャプチャ時間 (分数) を入力します。入力できる最大の時間は 300 分です。デフォルトの時間は、60 分です。
プレゼンスグループ (Presence Group)	<p>プレゼンス機能で使します。SIP または SCCP を実行する電話機は、プレゼンスエンティティに関するステータス (たとえば、電話機で BLF スピードダイヤル ボタンとして設定されている電話番号など) を要求するため、ウォッチャとして機能します。</p> <p>プレゼンスエンティティのステータスを電話機が受信できるようにするには、電話番号に適用されるプレゼンスグループのステータスの閲覧が許可されているプレゼンスグループ ([Presence Group Configuration (プレゼンスグループの設定)] ウィンドウで指定されています) を選択します。</p>
デバイスのセキュリティプロファイル (Device Security Profile)	<p>SCCP および SIP を実行する電話機の場合、デバイスに適用するセキュリティプロファイルを入力します。</p> <p>すべての電話機には、セキュリティプロファイルを適用する必要があります。電話機でセキュリティがサポートされていない場合は、非セキュアプロファイルを選択してください。</p> <p>ヒント このプロファイルで設定される CAPF 設定は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示される CAPF (Certificate Authority Proxy Function) の設定と連携します。製造元によってインストールされている証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) を管理する場合は、プロファイルと [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの両方で CAPF 設定を構成する必要があります。</p>
[SUBSCRIBE コーリング検索スペース (AAR Calling Search Space)]	プレゼンス機能で使用する SUBSCRIBE コーリング検索スペースは、電話機から発信されたサブスクリプション要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。ドロップダウンリストボックスから、この目的で使用するコーリング検索スペースを選択します。

フィールド	説明
[アウトバウンドコールロールオーバー (Outbound Call Rollover)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、発信コールに使用するロールオーバー オプションを選択します。</p> <p>[ロールオーバーなし (No Rollover)] : ロールオーバー機能をオフにする場合は、このオプションを選択します。このモードでは、会議および転送は動作しません。</p> <p>[同一 DN 内のロールオーバー (Rollover Within Same DN)] : 同じ DN 内でロールオーバーを使用する場合は、このオプションを選択します。この場合、電話会議およびコール転送は同じ電話番号を使用して (異なる回線で) 行われます。</p> <p>[任意の回線へのロールオーバー (Rollover to any line)] : 任意の回線にロールオーバーする場合は、このオプションを選択します。会議およびコール転送は、元のコールとは異なる電話番号と回線を使用して行われます。</p>
不在ポート (Unattended Port)	このデバイスの不在ポートを指示する場合に、このチェックボックスをオンにします。
[DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception)]	SIP と SCCP を実行している電話で DTMF 受信を必須にするには、このチェックボックスをオンにします。
[外部データ位置情報 (External Data Locations Information)]	
情報	情報ボタンに対応するヘルプ テキスト URL を入力します。
[ディレクトリ (Directory)]	ディレクトリ サーバの URL を入力します。
メッセージ	ボイス メッセージング アクセス パイロット 番号を入力します。
サービス	サービス メニューの URL を入力します。
認証サーバ (Authentication Server)	<p>電話 Web サーバに対する要求を検証するために電話機で使用する URL を入力します。認証 URL を指定しないと、Cisco Unified IP Phone 上の認証を必要とする拡張機能は有効になりません。デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>この URL はデフォルトでは、インストール時に設定される Cisco Unified IP Phone の [セルフケアポータル (Self Care Portal)] ウィンドウにアクセスします。</p>

フィールド	説明
プロキシサーバ (Proxy Server)	<p>電話機のHTTPクライアントからローカルホストアドレス以外に対するプロキシHTTPのアクセス要求に使用するホストとポート（たとえば、<code>proxy.cisco.com:80</code>）を入力します。</p> <p>電話機がサービスでURL（<code>www.cisco.com</code> など）を受信した場合、その電話機が <code>cisco.com</code> ドメインに設定されていない場合は、電話機はプロキシサーバを使用してURLにアクセスします。電話機が <code>cisco.com</code> ドメインに設定されている場合は、その電話機はURLと同じドメイン内にあるため、プロキシを使用せずにURLにアクセスします。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
アイドル (Idle)	<p>電話機が使用されていない時間が [アイドルタイマー (Idle Timer)] フィールドで指定されている値に達した時点で Cisco Unified IP Phone の画面に表示するURLを入力します。たとえば、電話が5分間使用されていない場合、画面にロゴを表示できます。デフォルト値を使用するには、このフィールドを空白にします。</p>
[アイドルタイマー (Idle Timer)]	<p>[アイドル (Idle)] フィールドで指定されているURLを電話で表示するまでの経過時間 (秒数) を入力します。デフォルト値を使用するには、このフィールドを空白にします。</p>
セキュア認証URL (Secured Authentication URL)	<p>電話Webサーバに対する要求を検証するために電話機で使われるセキュアURLを入力します。</p> <p>(注) セキュア認証URLを指定しない場合、デバイスは非セキュアなURLを使用します。セキュアなURLと非セキュアなURLの両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切なURLを選択します。</p> <p>このURLはデフォルトでは、インストール時に設定される Cisco Unified IP Phone の [セルフケアポータル (Self Care Portal)] ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は255文字です。</p>

フィールド	説明
セキュア ディレクトリ URL (Secured Directory URL)	<p>電話機のディレクトリ情報の取得元となるサーバの URL を入力します。このパラメータには、ユーザが [電話帳 (Directory)] ボタンを押したときに Cisco Unified IP Phone が使用するセキュア URL を指定します。</p> <p>(注) セキュアディレクトリ URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>
セキュア アイドル URL (Secured Idle URL)	<p>電話機が使用されていない時間が [アイドル タイマー (Idle Timer)] フィールドで指定されている値に達した時点で Cisco Unified IP Phone のディスプレイに表示する情報のセキュア URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD にロゴを表示できます。</p> <p>(注) セキュアアイドル URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>
セキュア情報 URL (Secured Information URL)	<p>Cisco Unified IP Phone がヘルプテキスト情報を見つけられるサーバロケーションのセキュア URL を入力します。この情報は、ユーザが電話機の情報 (i) ボタンまたは疑問符 (?) ボタンを押すと表示されます。</p> <p>(注) セキュア情報 URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>

フィールド	説明
セキュアメッセージ URL (Secured Messages URL)	<p>メッセージサーバのセキュア URL を入力します。ユーザが [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこの URL にアクセスします。</p> <p>(注) セキュアメッセージ URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>
セキュアサービス URL (Secure Services URL)	<p>Cisco Unified IP Phone サービスのセキュア URL を入力します。この設定は、ユーザが [サービス (Services)] ボタンを押したときにセキュア Cisco Unified IP Phone がアクセスする場所を指定します。</p> <p>(注) セキュアサービス URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>
[ホットラインデバイス (Hotline Device)]	<p>T または F と入力します。ホットラインデバイスは他のホットラインデバイスにのみ接続できます。これは PLAR の拡張機能です。PLAR では、電話がオフフックになった場合に自動的にダイヤルする特定の電話番号を設定します。ホットラインでは、PLAR を使用するデバイスに適用できる制限を追加できます。</p> <p>ホットラインを実装するには、補足サービスソフトキーなしのソフトキーテンプレートも作成して、そのソフトキーテンプレートをホットラインデバイスに適用する必要があります。</p>
内線番号情報	
[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)]	<p>エクステンションモビリティを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>0 (オフ) を選択するとこの機能が無効になり、1 (オン) を選択するとこの機能が有効になります。</p> <p>ユーザはエクステンションモビリティを使用することで、Cisco Unified IP Phone にログイン/ログアウトできます。</p>

フィールド	説明
[IPサービス1 (IP Services1)]	Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して、設定済みの任意のサービスを選択します。
[IPサービス2 (IP Services2)]	Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して、設定済みの任意のサービスを選択します。 Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Tool (BAT) を使用して、1回のトランザクションで3つ以上の IP サービスを更新することはできません。
認証局プロキシ機能 (CAPF) 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information) (これらのパラメータは、認証または暗号化をサポートできるデバイスにのみ表示されます)。	
証明書の操作 (Certificate Operation)	ドロップダウンリストボックスのオプションから、実行する [証明書の操作 (Certificate Operation)] を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [保留中の操作なし (No Pending Operation)] : このデバイスに関して保留中の証明書の操作リストはありません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドが無効になります。 • [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] : 証明書の操作をインストールまたはアップグレードします。 • [削除 (Delete)] : 証明書の操作を削除します。 • [トラブルシューティング (Troubleshoot)] : 証明書の操作をトラブルシューティングします。
[一意の認証文字列を各デバイスに生成 (Generate unique authentication string for each device)]	デバイスごとに一意の認証文字列を生成するには、このチェックボックスをオンにします。
認証文字列 (Authentication String)	[認証モード (Authentication Mode)] が [認証ストリング (By Authentication String)] の場合、認証文字列を入力します。または、[文字列を生成 (Generate String)] をクリックしてシステムで文字列を生成させます。
操作の完了期限 (Operation Completes By)	証明書の操作の完了日を入力します。日付形式は YYYY: MM: DD: HH です。デフォルトの完了日は、現在のシステム日付から 10 日後です。
[マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報 (MultiLevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	

フィールド	説明
[MLPP 通知 (MLPP Indication)]	<p>利用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスで、MLPP 優先コールの発信時にこの機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスに割り当てる設定として次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: このデバイスは MLPP 通知設定をデバイス プールから継承します。 • [オフ (Off)]: このデバイスは MLPP 優先コールの通知を送りません。 • [オン (On)]: このデバイスは MLPP 優先コールの通知を送ります。 <p>(注) デバイスの [MLPP通知 (MLPP Indication)]設定が [オフ (Off)]、[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)]設定が [強制 (Forceful)]という設定値の組み合わせは使用しないでください。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>利用可能な場合、この設定は、進行中のコールをプリエンプションできるデバイスで、MLPP 優先コールの発信時にこの機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスに割り当てる設定として次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: このデバイスは MLPP プリエンプション設定をデバイス プールから継承します。 • [無効 (Disable)]: このデバイスは、MLPP 優先コールの発信時に進行中のコールをプリエンプション処理しません。 • [強制 (Forceful)]: このデバイスは、MLPP 優先コールの発信時に進行中のコールをプリエンプション処理します。 <p>(注) デバイスの [MLPP通知 (MLPP Indication)]を [オフ (Off)]に設定すると同時に、[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)]を [強制 (Forceful)]に設定することはできません。</p>
[MLPPドメイン (MLPP Domain)] (「0000FF」など)	<p>このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。この値は空白または 0 ~ FFFFFFFF の値にしてください。</p>
サイレント (DND)	

フィールド	説明
[サイレント (Do Not Disturb)]	DND機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
DND オプション (DND Option)	ドロップダウンリスト ボックスから、DND のオプションとして次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> なし 呼出音オフ (Ringer Off) コール拒否 (Call Reject) [共通の電話プロファイル設定を使用 (Use Common Phone Profile Setting)]
DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)	ドロップダウンリストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> なし 無効 (Disable) フラッシュのみ (Flash Only) ビーブ音のみ (Beep Only)
[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]	
セキュアシェルユーザ (Secure Shell User)	セキュア シェル ユーザのユーザ ID を入力します。設定中の電話機がセキュアシェルアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、トラブルシューティングにセキュアシェルを使用します。TAC にお問い合わせください。
セキュア シェル パスワード (Secure Shell Password)	セキュア シェル ユーザのパスワードを入力します。設定中の電話機がセキュアシェルアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。TAC にお問い合わせください。
[Cisco IP Phoneサービスの割り当て (Assign IP Phone Services)]	
[このテンプレートからすべてのサービスを追加 (Add all services from this template)]	ドロップダウンリストボックスから、電話を更新するために使用するサービスのリストが含まれるテンプレートを選択します。 [IP Phoneサービスの編集 (Edit IP Phone Service)] リンクをクリックすると、テンプレート上のサブスクライブ済み Cisco Unified IP Phone サービスを更新できます。

フィールド	説明
[重複の削除 (Remove Duplicate)]	重複する IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複するサービス登録が電話機およびユーザデバイスプロファイルから削除されます。IP システムは、IP サービス名に基づいてサービスを削除します。
[プロダクト固有の情報 (Product Specific Information)]	
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。</p> <p>[システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : 電話機は、[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]エンタープライズ パラメータに指定された値を使用します。</p> <p>[非セキュア (Non Secure)] : この電話機にはセキュリティ機能がありません。Cisco Unified Communications Manager に TCP 接続が開きます。</p> <p>[認証 (Authenticated)] : Cisco Unified Communications Manager が電話機に対して整合性および認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続が開きます。</p> <p>[暗号化 (Encrypted)] : Cisco Unified Communications Manager が電話機に対して整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続が開きます。</p> <p>このフィールドは、電話機モデルが認証または暗号化をサポートしている場合にのみ適用されます。</p>
[すべての電話およびデバイスプロファイルから、重複するIPサービスを削除する (Remove Duplicate IP Services from all Phones and Device Profiles)]	重複する IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複するサービス登録が電話機およびユーザデバイスプロファイルから削除されます。IP システムは、IP サービス名に基づいてサービスを削除します。
[スピーカフォンの無効化 (Disable SpeakerPhone)]	スピーカフォンを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
スピーカフォンとヘッドセットを無効にする (Disable Speakerphone and Headset)	スピーカフォンとヘッドセットを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
転送の遅延 (Forwarding Delay)	このフィールドを使用して、転送の遅延を有効または無効にします。コールを転送する前に、ポートに数秒待機させるには、[有効にする (Enable)]を選択します。

フィールド	説明
PCポート (PC Port)	このフィールドを使用して、スイッチが組み込まれた電話機のPCポートを有効または無効にします。電話機背面の“10/100 PC”というラベルのポートを使用すると、電話機にPCまたはワークステーションを接続できます。
[Setting Access]	このフィールドを使用して、ユーザに電話の設定へのアクセスを許可するかどうかを選択します。オプションは [有効 (Enabled)] と [無効 (Disable)] です。
Gratuitous ARP	[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択して Gratuitous ARP を制御します。
PC Voice VLAN へのアクセス (PC Voice VLAN Access)	[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択して PC の音声 VLAN へのアクセスを制御します。
ビデオ機能 (Video Capabilities)	[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択してビデオ機能へのアクセスを制御します。
自動回線選択	[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択して、電話機で自動回線選択を有効または無効にします。
Web アクセス (Web Access)	[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択して電話機での Web アクセスを有効または無効にします。

